

かならずと見た警官隊は直ちに解散を命ずると職工團中に何か爲めの解散た
ど教團者ありて正に一大修羅場に陥らんと思はれたが急報に接して因島警署より應
援警官馳せつけ半議團の方も應援する爲め駆け付けたが同四時四名の検束者
出して其のまゝ騒ぎは静まつた。

六月十日 中國新聞記事

益々紛糾する因島の半議遂に双方血を見る

大坂鐵工所因島分工場の八日午後に於ける騒擾は既報の如くであるが當時の模
様を聞くに約六百名の職工大山神社に登らんとする際にも先頭が歩を止めた
ので列が乱れ一同は雪崩を打つて工場の閉鎖せる門を打ち壊さんとして更に其
の歸路に於ても亦同様の手段で門は既に破れんとせざるを容れず教名の守衛が之
れを防ぎ警官が阻止せんとするや遂に門内に入り乱れて殴り合ひが初まりこれが爲め因
島分署巡查三名は棍棒様のもりで殴打されて負傷し其場やと名の檢束者を出し又

半議團の中にも四五名の刀傷者あり工場側の職工にも八名の重軽傷者を出し目
下因島病院で加療中であるが一時は大変な騒ぎであつた。

更に二名檢束

その翌九日午前七時頃半議團員二名が出勤せんとする職工に對して威壓
的なる態度及び煽動的な行爲があつたので同朝二名共に因島分署に檢束され
た。

生名島で密議

半議團職工の一部五十餘名は密議を疑ひその必要上九日朝對岸なる愛媛
縣生名島に渡り其際教官がその一行を見送つてると「オイ来い々々オイ来い
か」等と揶揄するものあり更に其後教團に互り百餘名が同島に渡り午後二時頃
頻りに喊聲を揚げその聲は土生所に迄手に取るが如くに聞こは一般町民は聲あ
る毎に不安の念を昂めつゝあつた。

半議團宣傳文